

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 56

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	消防団車両整備事業											
所属名	消防本部			消防総務課			消防グループ					
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	9	安全	基本 施策	1	日常生活における安全を確保する	施策	1	消防体制の充実
予算科目	8	1	3	消防施設	費	81305	消防車両整備	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等												
事業の実施主体												
事業の実施方法												

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	高山市全市民	受益者数	96,231 人			
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	火災をはじめとする災害に早期に対応するためには、消防団車両を常に万全の形で整備しておく必要がある。このため、老朽化した消防団車両を更新し、消防団活動の安全性と災害時の対応能力の向上を図る。					
概要	事業の実施手法、手順	消防団車両整備計画により、更新予定の車両を計画的に更新する。地域特性を考慮し必要により配備車種(ポンプ車、積載車、軽積載車)を変更する。					
概要	事業始期・終期	始期	年度から	終期	年度まで	設定なし	○
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 広範囲である市全体について、地域の状況や支団の現状等考慮し、効率的な形で消防力の維持が図れるよう消防団車両の配置を検討する中で必要台数を決定し、今後計画的に車両の更新を行う。						

3 事業費の推移・結果(Do)

(コスト面)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)	40,000	42,000	31,000	31,000	31,000
総合計画計画額(計画額)	40,000	42,000	31,000	31,000	31,000
事業費 (計画・予算・見込・決算額)	予算額	46,500	38,500	31,000	
	決算・見込	43,260	37,525		
財源	国庫支出金	予算額			
		決算・見込			
	県支出金	予算額			
		決算・見込			
	地方債	予算額	21,600	19,100	
		決算・見込	21,600	19,100	
	受益者負担	予算額			
		決算・見込			
	繰入	予算額			
		決算・見込			
一般財源	予算額	24,900	19,400	31,000	
	決算・見込	21,660	18,425		
H17国勢調査	96,231 人	32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価		
受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-		
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	450	390		
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	1,345	1,166		
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人				
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人				
	単位 円/人				

(成果面)

活動・成果指標	指標名	更新車両数						単位	台	活動の方向
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度			
活動指標	目標値	-	-	2	2	2	2		↑	
	実績値	3	3	2						
	達成率	-	-	100	0	0	0			
成果指標	目標値	-	-	2	2	2	2		↑	
	実績値	3	3	2						
	達成率	-	-	100.0	0.0	0.0	0.0			

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	更新(高山5台、一之宮3台、朝日2台、高根2台、国府3台、上室1台、莊川1台 計17台) 車種変更(高山:積載車→ポンプ車、朝日、高根:積載車→軽積載車→更新時に車種を変更) 班の統合による全体車両数の減(高山△1台、一之宮△1台、高根△1台、上室△2台 計5台)	175,330 千円
	事業費	(内容)	千円
	その他	千円	
	受益者負担	(内容)	千円
本年度	対象・手段	ポンプ車2台更新(高山、朝日:各車両とも20年経過)	31,000 千円
	事業費	(内容)	千円
	その他	千円	
	受益者負担	(内容)	千円

【成果面】

進捗	項目	評価内容(算定式)		進捗率
		整備見込	2 / 整備目標 2 単位 台	
本年度	整備状況	整備見込	2 / 整備目標 2 単位 台	100.00
	事業費状況	決算見込	31,000 / 予算額 31,000 単位 千円	
本年度までの累計	整備状況	整備累計	19.00 / 全体計画 27.00 単位 台	70.4
	事業費状況	累計	206,330 / 全計画額 329,696 単位 千円	62.6
進捗結果・理由	事業の進捗率の考え方	全体計画に基づいた整備台数により考える。		
	理由	23年以上経過した車両を一括更新することは困難であり、台数調整し更新を行っている。		

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	判定理由	消防車両は年月の経過による老朽化が避けられない。また、シャーシ部品のメーカー供給が終了している車両もあり、計画的な更新は不可避であり事業の必要性は高い。	判定	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価	A	
②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	判定理由	Nox、PM法の改正や鉄の需要拡大、燃料価格の高騰等によりシャーシを始め物価が高騰している。更新台数と消防車両の種類の違いにより、年度によって予算の増減がある。	項目	②コスト面	増加	維持	減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	判定理由	最新車両の導入により、消防団の機動力の向上、操作性の向上が図られ、災害時におけるより迅速な対応が可能となった。	③成果面	拡大	○		
			コスト・成果ポジション		C 第3水準		

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持	一次評価 主管課
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要	
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要	
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要	
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要	

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	計画どおり	改善・継続	終期設定	休止	廃止	完了
活動の方針	計画どおり ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了					
次年度実施方針	消防団車両整備計画により計画的に更新を行う。					
総合評価	コスト	中	成果	中	評価区分	III
	「II」以上の水準に向けた改善が必要					
	消防団の全体のあり方をはっきりさせる必要があり、その後、配置基準に基づき車両を整備していくことが効率的である。そのため、各団の意見も聞きながら分団や班の再編についても検討する必要がある。					